

私が「感動した建築」は谷口吉生が設計した広島市環境局中工場である。この建築はごみ処理施設であり一般的にはあまり人との関わりが少なく汚いイメージを持つことが普通だと考える。しかし、谷口はこの建築でごみ処理場の概念を覆し、美術館のようなきれいな空間を提案した。この点について私は賛成である。なぜなら、人と関わりのある建築が増えれば地球においての人の動線が広がり、機能的で視野が広がる世界へと変わっていくと考えるからだ。例えば、デンマークの建築家ビャルケ・インゲルスは発電所の屋上の傾斜をスキー場に変えた。このことから、発電所のイメージは身近で楽しい場所へと変わったと考える。したがって、谷口の見解は世界や人の視野を広げることができ、これからの世界を発展させていく建築と人を繋げる架け橋となるため、私はこの意見に賛成である。

また、この谷口の見解によって目に見える変化が起きている。それは、中工場前で釣りをする人がたくさんいるということだ。私は昨年度の春、学校の課題で中工場へ足を運んだ。その時は、まだ肌寒く人の気配はまばらだったが、花見をしに家族でもう一度訪れたときには大勢の人で賑わうごみ処理場の姿があった。そもそもごみ処理場に人が大勢集まることは人へのイメージが変わっているということがいえる。それに加えて、ごみ処理場で釣りをすることは、人へのイメージが変わっただけでなく環境が変わっていると考えるべきである。このような目に見える変化により私はこの建築に心を動かされたといえる。

そして、先ほど花見というワードが話の中に出てきたが、中工場には四季折々の植物たちが敷地内に植えられており、工場の中にも植栽が配置されている。この建築で谷口はある仕掛けをしていると考える。それは、時計回りに中工場の周りを歩いてみると、名前が書かれたプレートが添えられた植物たちを見ることができるとのことだ。この谷口の見解についても私は賛成である。なぜなら、そこはまるで庭園のような雰囲気を出しており、敷地内を出るその瞬間までごみ処理場にいたことを忘れさせてくれるからだ。ここで谷口は、人の心をデザインしており、とてもおもてなしの溢れる空間を提案している。また、中工場を訪れた人全員を誘導できるように駐車場を左側に設け、丁寧なアプローチを提案しているのだと考える。この谷口の見解について、私は賛成である。

ここでこの建築の最大の魅力である中工場の中の動線について話していきたいと思う。この動線はここに来るまでの道と並行してまっすぐと海に向かって伸びている。そこには立ち止まって見学できるベンチや、中工場の理解を深めるための電子パネルなどが設置され、とてもパブリックなスペースとなっている。また、地面より少し高いところに位置することから、恐怖感を持つ可能性もあると考えていたが、しっかりと地面との繋がりができしており、安心でき落ち着いた空間となっている。しかし、この一本道だけでは中工場の魅力を伝えきれていないと考える。そこで横や上下、広い狭いなどの抑揚のついた動線を増やすことによって見学者に探求心が湧き、もっとたくさんの方が訪れるようになると思う。したがって私は、谷口の見解と異なり多様化した動線をもっと作るべきだと考える。このことから、少しプライベートな部分も見ることができ、愛着が湧くような建築になると考える。

また、中工場は幅広い世代の人に来てもらえるようなバリアフリーを用いた設計がなさ

れていた。例えば駐車場から広場につなぐ通路は緩やかなスロープで繋ぎ、駐車場と公園の境目の手すりには車いすでも通れるようなスペースが設けてある。また、中工場内に入るためのエレベーターが設けてあり、高齢者の方でも気軽に見学できるようになっている。このような細かい配慮がされているからこそ安心して遊びに来ることのできる建築であるといえる。

そして、この建築を真上から見ると敷地が三角形になっており真ん中に建築物が配置されていることがわかる。このことから広場が分離しそれぞれ違う表情を見せている。例えば、駐車場に近い広場は町と隣接しており開放的で子どもたちが遊びたくなるような魅力を持っていると考える。もう一つの広場は先ほどとは反対に町と分離されており、まるで街中ではないような落ち着いた雰囲気を持ち、大人がベンチでゆっくりとくつろげるような魅力を持っていると考える。このようにそれぞれのスポットでいろいろな雰囲気を味わうことができるのも中工場の魅力であり私が感動した点である。

このように、中工場は様々な顔を持っており人が快適に生活していくために必要な建築である。世界を変える建築物として中工場のような機能的な建築物が増えていけば、地球温暖化や人口過密問題といった問題を解決する発端となり、社会はもっと活性化していくと考えられる。